科目名	ネットワークⅡB					
科目名(英)						
単位数	6単位	時間数	90時間	担当者	打越 直美	
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	IT企業のエンジニアとして勤務	
対象学科・学年	情報システム科ネットワーク専攻2年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻2年・情報工学科高度ネットワーク・セキュリティ専攻2年・情報システム科ネットワーク専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻アドバンスコース1年					
授業概要	スイッチングの基礎、スイッチネットワークの冗長構成、スイッチリンクの高速化、スイッチネットワークのセキュリティに必要な技術を学習し、小規模ネットワークの構築と運用ができるようになる iCDタスクコード : DV04.9.1					
授業形態	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				スイッチネットワークの仕組みを説明できる
	○	○				小規模ネットワークの設定、動作確認ができる
	○	○				小規模ネットワークの運用、トラブルシューティングができる
テキスト・教材 参考図書	シスコ技術者認定教科書 CCNA 完全合格テキスト&問題集[対応試験]200-301(翔泳社)					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1-2	スイッチングの仕組み				
	3-4	スイッチの基本設定と確認				
	5-6	VLANの概要				
	7-8	トランキングプロトコル				
	9-10	DTPIによるネゴシエーション				
	11-12	VTPIによるVLANの管理				
	13-14	VLAN間ルーティングの仕組み				
	15-16	VLANの設定と確認、トラブルシューティング				
	17-18	STPの概要				
	19-20	STPポートの役割				
	21-22	STPのトポロジー変更				
	23-24	STPの設定と確認				
	25-26	STPの拡張機能				
	27-28	RSTPIによる高速化				
	29-30	EtherChannelの仕組み				
	31-32	EtherChannelの設定と確認				
	33-34	IPv6の概要				
	35-36	IPv6アドレッシングの設定				
	37-38	FHRPの概要				
39-41	HSRPの基本設定と確認					
42-43	スイッチのセキュリティ機能					
44-45	ポートセキュリティの設定と確認					
(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業の中で確認テストを10回実施する。(3)実習内容を課題レポートとして提出させる。(4)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合

評価方法	定期試験	○	◎				40%
	確認テスト		◎				20%
	課題		◎	○			20%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意							

科目名	サーバー構築・運用演習 I						
科目名(英)							
単位数	6単位	時間数	90時間	担当者	打越 直美		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科ネットワーク専攻2年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻2年・情報工学科高度ネットワーク・セキュリティ専攻2年・情報システム科ネットワーク専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻アドバンスコース1年						
授業概要	インターネットサーバーの基本となるDNS、Web、メールの仕組みを理解し、Linux環境で各サーバーを構築する手順を習得する						
	iCDタスクコード : DV04.4.1, DV04.7.1						
授業形態	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				DNSの仕組みを理解し、Linux環境でDNSサーバーの構築、動作確認ができる	
	○	○				Webの仕組みを理解し、Linux環境でWebサーバーの構築、動作確認ができる	
	○	○				MAILの仕組みを理解し、Linux環境でメールサーバーの構築、動作確認ができる	
	○	○				要件通りにサーバーを構築し、トラブルシューティングができる	
テキスト・教材 参考図書	AWSではじめるLinux入門ガイド(マイナビ出版)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-4	実習環境準備、前期コマンド復習				前期のLinuxコマンドを復習すること	
	5-8	DNSサーバー:DNSの仕組み、BIND設定					
	9-18	DNSサーバー:ゾーンファイル設定、マスタースレーブ				DNS演習のエビデンスを提出すること	
	19-22	Webサーバー:Webの仕組み、Apache設定					
	23-26	Webサーバー:Webの仕組み、Nginx設定				Webサーバー(Apache)演習のエビデンスを提出すること	
	27-29	Webサーバー:モジュール、ユーザー認証				Webサーバー(Nginx)演習のエビデンスを提出すること	
	30-33	Webサーバー:ユーザーディレクトリ、バーチャルホスト					
	34-36	MAILサーバー:メールの仕組み					
	37-40	MAILサーバー:Postfix設定、Dovecot設定					
	41-43	MAILサーバー:メーラー設定、SMTPコマンド、POPコマンド				MAILサーバー演習のエビデンスを提出すること	
	44	総合演習課題1					
	45	総合演習課題2				演習課題のエビデンスを提出すること	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業の中で確認テストを2回実施する。(3)実習内容を課題レポートとして提出させる。(4)受講状況进行评估する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				30%
	確認テスト		◎				20%
	課題レポート		◎	○			30%
受講状況				◎		20%	
履修上の注意							

科目名	ネットワーク構築演習 I B						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	打越 直美		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科ネットワーク専攻2年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻2年・情報工学科高度ネットワーク・セキュリティ専攻2年・情報システム科ネットワーク専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻アドバンスコース1年						
授業概要	イーサネット技術を理解し、ルータやスイッチを組み合わせてネットワークを構築するために必要な設定、動作確認、トラブルシューティングができるようになる iCDタスクコード : DV04.4.1						
授業形態	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				スイッチングの基本機能、仕組みが説明できる	
	○	○	○			スイッチングに関する設定、動作確認ができる	
	○	○	○			スイッチングに関するトラブルシューティングができる	
テキスト・教材 参考図書	シスコ技術者認定教科書 CCNA 完全合格テキスト&問題集[対応試験]200-301(翔泳社)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-2	VLAN(基本設定、トランク、ネイティブVLAN)					
	3-4	VLAN(DTP、VTP)					
	5-6	VLAN間ルーティング				VLANの基本設定を復習する	
	7	コマンド復習、テスト1					
	8-9	スパニングツリープロトコル					
	10-11	スパニングツリープロトコル(拡張機能)				STPの基本設定を復習する	
	12-13	EtherChannel(スタティック)					
	14-15	EtherChannel(ダイナミック)				EtherChannelの基本設定を復習する	
	16-17	IPv6(基本設定、スタティックルーティング)				IPv6の基本設定を復習する	
	18-19	HSRP				HSRPの基本設定を復習する	
	20	コマンド復習、テスト2					
	21-23	複合ネットワーク(STP、VLAN)					
	24-26	複合ネットワーク(STP、HSRP)					
27-28	ポートセキュリティ						
29-30	小規模ネットワーク構築						
評価方法	(1)実習内容を課題レポートとして提出する。(2)授業の中で授業内評価テストを2回実施する。 (3)受講状況の評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	演習課題レポート	○	◎	○			40%
	授業内評価テスト	○	◎				40%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	再試験は実施しない						

科目名	システム開発演習 I						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	90時間	担当者	打越 直美、北島 仁宇		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科ネットワーク専攻2年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻2年・情報工学科高度ネットワーク・セキュリティ専攻2年・情報システム科ネットワーク専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻アドバンスコース1年						
授業概要	企業連携授業を通し、セキュリティ監視などで用いられるデータ分析基盤の基本用語、基本操作を身につける。また運用監視業務を実践的な環境で体験することで、運用監視に関する基本用語を押さえ、ビジネスマナーを意識して顧客に適切に報告するスキルを身につける。 iCDタスクコード : DV04.9.1、DV04.9.2、DV04.11.1						
授業形態	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				データ分析基盤に関する基本用語、概要を説明できる	
		○				Splunkを用いてデータ分析の基本操作を実施できる	
	○	○				ネットワーク運用監視に関する基本用語を説明できる	
		○				ネットワーク運用監視に関する報告書を作成し、ビジネスマナーを意識して報告できる	
テキスト・教材 参考図書	オリジナル教材						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	データ分析演習オリエンテーション					
	2,3	Splunkの基本用語、概要					
	4-10	Splunkの基本操作					
	11-30	Splunkによるデータ分析演習					
	31-33	データ分析演習まとめ				発表に向けた準備をすること	
	34	運用演習オリエンテーション					
	35,36	演習の進め方、演習①オンサイト対応と工事統制					
	37,38	演習②監視の登録と非監視対応					
	39,40	演習③冗長ルータ切り分け対応					
	41,42	演習④セキュリティ装置(UTM)問合せ対応					
	43-45	運用演習まとめ				発表に向けた準備をすること	
	評価方法	(1)複数課題を実施し評価する (2)受講状況の評価する ※やむを得ない事情を除き、企業演習不参加の場合は大幅に減点する 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
データ分析演習課題		◎	◎		○		60%
運用演習課題		◎	◎		○		20%
受講状況					◎		20%
履修上の注意	再試験は実施しない。企業連携授業は必ず参加すること(公欠などやむをえない事情は除く)。						

科目名	キャリアデザイン						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	打越 直美		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻2年・情報システム科ネットワーク専攻アドバンスコース1年						
授業概要	就職活動の準備としてIT業界の研究、自己分析、履歴書作成、面接練習を行う。						
	iCDタスクコード 該当なし						
授業形態	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				IT業界の職種について説明ができる。	
	○	○				就職採用試験に提出する履歴書の作成ができる。	
	○	○	○	○		面接試験を受ける準備ができる。	
テキスト・教材 参考図書	就職活動ガイドブック(麻生塾)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	就職活動の流れ、就職活動のルールを知る					
	2	業界研究① IT業界の基礎			IT業界について調査する		
	3	業界研究② 様々な業種に絡むIT業界			IT分野の業種について調査する		
	4	業界研究③ IT業界で活躍する人材とは			社会人基礎力について調査する		
	5	自己分析① 過去の自分と向き合う			就職活動ガイドブックの自己分析シートを記入する		
	6	自己分析② 今の自分と向き合う					
	7	自己分析③ 未来の自分と向き合う			5年後、10年後の自分の姿を予想する		
	8	履歴書作成① 自己PR			自己PRを完成させる		
	9	履歴書作成② 業界志望理由			業界志望理由を完成させる		
	10	履歴書作成③ 趣味・特技・特記事項			履歴書を完成させる		
	11	面接練習① 入退室の所作					
	12	面接練習② 自己PR・志望理由の受け答え					
	13	面接練習③ 自己PR・志望理由の掘り下げ					
	14	面接練習④ 学生時代に力を入れたこと					
	15	企業説明会・入社試験時のマナー					
評価方法	(1)履歴書を作成する。(2)面接状況(動作、受け答え)を評価する。(3)業界セミナー、就活セミナーのレポートを提出する。(4)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	履歴書提出	○	◎				30%
	面接状況	○	◎	◎	◎		30%
	レポート提出		○		◎		20%
受講状況				◎		20%	
履修上の注意	再試験は実施しない。						

科目名	ビジネスコミュニケーションⅡ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	逢坂 美千代		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科ネットワーク専攻2年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻2年・情報工学科高度ネットワーク・セキュリティ専攻2年・情報システム科ネットワーク専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻アドバンスコース1年						
授業概要	プレゼンテーション技法の基礎を正しく理解し、「話す力」、「伝える力」を高める実践的な演習を行う。						
	iCDタスクコード 該当なし						
授業形態	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○		○		プレゼンテーション技法の基礎を説明できる	
		○		○		相手に伝わることを意識したプレゼンテーションができる	
テキスト・教材 参考図書	プレゼン資料のデザイン図鑑(ダイヤモンド社)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	プレゼンテーションとは何か					
	2	プレゼンテーションツール作成の基礎知識					
	3	企画立案・情報収集法					
	4	プレゼンテーションツール別プレゼンテーションの留意点					
	5	①プレゼン演習 チームに分かれて企画立案・情報収集				作成準備を事前に行っておくこと。	
	6	①プレゼン演習 発表会 <今の気持ちを正直に話す>				発表練習を事前に行っておくこと。 プレゼンシート提出。	
	7	②プレゼン演習 チームに分かれて企画立案・情報収集				作成準備を事前に行っておくこと。	
	8	②プレゼン演習 発表会 <わかりやすく話す>				発表練習を事前に行っておくこと。 プレゼンシート提出。	
	9	③プレゼン演習 チームに分かれて企画立案・情報収集				作成準備を事前に行っておくこと。	
	10	③プレゼン演習 発表会 <自由に発想する>				発表練習を事前に行っておくこと。 プレゼンシート提出。	
	11	④プレゼン演習 チームに分かれて企画立案・情報収集				作成準備を事前に行っておくこと。	
	12	④プレゼン演習 発表会 <売れるプレゼン>				発表練習を事前に行っておくこと。 プレゼンシート提出。	
	13	⑤プレゼン演習 チームに分かれて企画立案・情報収集				作成準備を事前に行っておくこと。	
	14	⑤プレゼン演習 発表会 <ネットで集めたデータを分析する>				発表練習を事前に行っておくこと。 プレゼンシート提出。	
15	まとめ						
評価方法	(1)レポートまたは課題を数回実施する。(2)プレゼンシートを評価する。(3)発表を評価する。 (4)受講状況の評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題・レポート提出		◎		○		30%
	プレゼンシート		◎				30%
	発表		◎		○		20%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	再試験は実施しない						

科目名	一般教養ⅡB						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	畠添 正和		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報工学科 2年・情報システム専攻科 2年・情報システム科 2年 情報システム科アドバンスコース1年、情報システム専攻科アドバンスコース1年						
授業概要	就職筆記試験に関して以下の対策を行う。 ①「SPIテスト」前期から継続し、数学分野(未実施分)を含め、解説&練習問題を行う ②「CAB・GABテスト」テキストに沿って、解説&練習問題を行う ⇒ 授業内評価テスト(2回)を実施する ③ 漢字対策：麻生塾の「ミニテスト」を利用し、漢字の練習 ⇒ 確認 を行う <hr/> iCDタスクコード： 該当なし						
授業形態	講義： ○	演習： △	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				言語分野・非言語分野の問題に対して解答を説明できる	
テキスト・教材 参考図書	最新最強のSPIクリア問題集(成美堂出版) 最新最強のCAB・GAB超速解法(成美堂出版)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	CAB・GAB対策(その1)					
	2	CAB・GAB対策(その2)、漢字対策(その1)					
	3	CAB・GAB対策(その3)、漢字対策(その2)					
	4	CAB・GAB対策(その4)、漢字対策(その3)				授業内評価テストの範囲を復習しておくこと	
	5	授業内評価テスト①(CAB一連テスト)、漢字対策(その4)					
	6	CAB・GAB対策(その5)、漢字対策(その5)				授業内評価テストの範囲を復習しておくこと	
	7	授業内評価テスト②(GAB一連テスト) SPI数学分野及び国語分野の対策(その1)、漢字対策(その6)					
	8	SPI数学分野及び国語分野の対策(その2)、漢字対策(その7)					
	9	SPI数学分野及び国語分野の対策(その3)、漢字対策(その8)					
	10	SPI数学分野及び国語分野の対策(その4)、漢字対策(その9)					
	11	SPI数学分野及び国語分野の対策(その5)、漢字対策(その10)					
	12	SPI数学分野の対策(その6)、漢字対策(その11)					
	13	SPI数学分野の対策(その7)及びSPI模擬テスト(textの別冊1)					
	14	SPI性格検査、CAB・GAB性格検査OPQ					
15	SPI数学分野及びSPI国語分野の復習、定期試験対策						
評価方法	(1)定期試験を実施する。(2)授業の中で授業内評価テスト(30分間・2回)を実施する。授業の中で、SPI国語分野の補完として、漢字対策を実施する。(3)受講状況の評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				50%
	授業内評価テスト	◎	◎				30%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意							

科目名	クラウド						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	打越 直美		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科2年・情報システム専攻科2年・情報工学科2年・ 情報システム科アドバンスコース1年・情報システム専攻科アドバンスコース1年						
授業概要	クラウドの概念、AWSの主要サービス、料金、セキュリティ、アーキテクチャ、サポートに関する全体像を説明することができるようになる。 iCDタスクコード 該当なし						
授業形態	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				クラウドに関する基本用語、仕組みを説明できる。	
	○	○				IAM、VPC、EC2、S3、EFS、RDSの基本用語、仕組みを説明できる。	
	○	○				IAM、VPC、EC2、S3、ロードバランサ、オートスケーリングの基本的な設定ができる。	
テキスト・教材 参考図書	AWS Academy Cloud Foundations (AWS)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	コース紹介、モジュール1:クラウドのコンセプト					
	2	モジュール2:クラウドエコノミクスと請求					
	3	モジュール3:AWS グローバルインフラストラクチャの概要					
	4	モジュール4:クラウドのセキュリティ					
	5,6	モジュール5:ネットワークとコンテンツ配信					
	7,8	モジュール6:コンピューティング					
	9,10	モジュール7:ストレージ					
	11,12	モジュール8:データベース					
	13,14	モジュール9:クラウドアーキテクチャ					
	15	モジュール10:Auto Scalingとモニタリング					
	評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)課題・レポートを数回実施する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験		◎	◎				40%
課題・レポート		◎	◎		○		30%
受講状況					◎		30%
履修上の注意							

科目名	データ分析基礎						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	山下 文夫		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科プログラミング専攻2年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻2年・情報工学科高度ITシステムエンジニア専攻2年・情報システム科プログラミング専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻アドバンスコース1年・情報システム科ネットワークエンジニア専攻2年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻2年・情報工学科高度ネットワーク・セキュリティ専攻2年・情報システム科ネットワーク専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻アドバンスコース1年						
授業概要	統計学分野の用語や考え方について体系的に学習し、データ分析を行うための基礎知識を学ぶ。						
	iCDタスクコード	AI03.4.2					
授業形態	講義:	○	演習:	△	実習:		
					実技:		
	※ 主たる形態:○ その他:△						
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					統計学の分野の各用語を説明できる	
	○	○				統計学の分野の各問題を解くことができる	
テキスト・教材 参考図書	阿部 真人 『データ分析に必須の知識・考え方 統計学入門』 ソシム、2021						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	統計学とは					
	2	母集団と標本					
	3	統計分析の基礎 データの種類、統計量					
	4	統計分析の基礎 確率					
	5	推測統計					
	6	信頼区間					
	7	仮説検定					
	8	仮説検定の計算				計算問題を復習すること	
	9	様々な仮説検定					
	10	回帰と相関					
	11	統計モデリング					
	12	仮説検定における注意点					
	13	因果と相関					
	14	ベイズ統計					
15	統計モデル・機械学習モデル・数理モデル						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)確認テストを実施する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				50%
	確認テスト	◎	◎				30%
	受講状況				○		20%
履修上の注意							

科目名	ネットワーク基礎						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	打越 直美		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科ネットワーク専攻2年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻2年・情報工学科高度ネットワーク・セキュリティ専攻2年・情報システム科ネットワーク専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻アドバンスコース1年						
授業概要	TCP/IPネットワークに利用されている技術やツールについて学び、シミュレーションソフトを使用して、データ転送の仕組みやアプリケーションプロトコルについて理解する iCDタスクコード 該当なし						
授業形態	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				IPアドレス、サブネットマスクの意味、サブネット化の計算ができる	
	○	○				要求に応じて、小規模LANの設計ができる	
	○					telnet、DNS、HTTPなどのアプリケーションプロトコルについて説明できる	
	○					OSI参照モデルの各レイヤの特徴を説明できる	
テキスト・教材 参考図書	シスコ技術者認定教科書 CCNA 完全合格テキスト&問題集[対応試験]200-301(翔泳社)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1-2	OSI参照モデル、TCP/IPモデル			OSI参照モデルについて復習すること		
	3-4	ポートとプロトコル					
	5-6	IPv4アドレスの特徴					
	7	サブネット化の目的			サブネット化について復習すること		
	8-9	サブネット計算(FLSM)					
	10-11	サブネット計算(VLSM)			サブネット計算について復習すること		
	12-13	Ciscoルータアクセス、設定コマンド			ルータ設定コマンドについて復習すること		
	14-15	スタティックルーティングの基本、設定			スタティックルーティングについて復習すること		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する (2)確認テストを3回実施する (3)課題レポートの提出を数回実施する (4)受講状況进行评估する 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				30%
	確認テスト		◎				30%
	課題レポート		◎		○		20%
受講状況				◎		20%	
履修上の注意							

科目名	情報処理試験秋対策						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	20時間	担当者	川野 啓祐		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科2年・情報システム専攻科2年・情報工学科2年・ 情報システム科アドバンスコース1年・情報システム専攻科アドバンスコース1年						
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。 iCDタスクコード 該当なし						
授業形態	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1~5	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。			分からなかった部分の復習をしておくこと。		
	6~10	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。			分からなかった部分の復習をしておくこと。		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。ただし、国家試験を定期試験とみなす。 (2)課題・レポートを数回実施する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎				55%
	課題・レポート	○	◎				25%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	再試験は実施しない						